

令和3年度 実務実習教科担当教員会議 議事録

1. 開催日時：令和4年3月19日（土）10:00～12:00
2. 開催様式：オンライン会議（Zoomを使用）
3. 出席者：199名
4. 本会議
 - (1) 開会の挨拶 北陸大学 石川和宏
 - (2) 「第106回 薬剤師国家試験問題検討委員会報告」（配布資料）

報告者 広島国際大学薬学部 三宅勝志 先生
 - (3) 講演「AI、ロボット化が進展する時代に勝ち残れる薬剤師、生き残れる薬剤師を育てるために薬学教員に求められるもの」（配布資料）

演者 一般社団法人 医薬品安全使用調査研究機構 設立準備室 土屋文人 先生
 - (4) 講演「薬剤師養成及び薬学教育の見直しに関する動向について」（配布資料）

演者 名城大学薬学部 長谷川洋一 先生
 - (5) 次回開催案内・閉会挨拶 北陸大学 石川和宏

5. 会議報告

(1) 開会の挨拶

本年度の委員長である石川和宏（北陸大学）より開会の挨拶にて、昨年度同様本年度も新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて対面形式での実現がかなわず、Zoomによる薬学臨床系教員連絡会議とのオンライン共催に至ったことが説明された。

(2) 「第106回 薬剤師国家試験問題検討委員会報告」

広島国際大学薬学部の三宅先生より、2021年5月16日（土）オンライン会議として開催された第106回 薬剤師国家試験問題検討委員会にて各大学からの意見を持ち寄って議論された内容が紹介された。全体として良問が増えていることが確認され、症例設定での矛盾点、添付文書内の細部あるいは実務との関連性の薄さに加えて適応外使用の問題も取り上げられていた。すでに第107回が終了している現時点において、第106回の出題内容も踏まえて今後開催される検討委員会にて第107回についての議論がより深まることが期待されるとのことであった。

(3) 講演「AI、ロボット化が進展する時代に勝ち残れる薬剤師、生き残れる薬剤師を育てるために薬学教員に求められるもの」

薬剤師は医療職の中で対人及び対物の両業務を責務として負っている唯一の職種であり、今後対物業務の作業はロボット化が進展することで薬剤師が行う必要度は低くなっていくことが示された。そこからは、対物業務はロボットに任せれば良いという発想が生まれやすいが、責務を負っている以上実はそうではなく、対物業務の管理に業務シフトすべきであることが強調されていた。さらにこれからの時代に薬剤師に求められる視点として、薬物療法を薬物から視る（考える）という薬学的視点が重要で、捉え方としては薬学的臨床推論を行うのであり、医学的診断を行うのではないことをしっ

かりと理解し教育に活かしていくことが大切であるとのことでした。この視点に基づき薬剤師が身につけるべき能力としては、対人及び対物業務対応能力が必須である。対人業務対応能力として対象になるのは対患者あるいは対医療関係者であり、主体となる能力は相手のニーズを的確に把握するための聞き出す力を十分に備えたコミュニケーション力と記録等の情報活用力であるとのことでした。記録として残すことと記録にある情報を活用するというこの能力は対人及び対物を問わず両業務対応能力として共通のものとなるそうです。今後の薬学教育としてこの点をしっかりと踏まえて取り組むべきであることが最後に述べられていた。

(4) 講演「薬剤師養成及び薬学教育の見直しに関する動向について」

医療の高度化・複雑化や少子高齢社会の進展等の医療を取り巻く社会全体の大きな変化に対して薬剤師に求められる役割や業務内容が劇的に変化してきている。このような現状を踏まえ、薬剤師の養成とともに薬学教育が今後いかにあるべきかという問いかけから検討会が立ち上がり、この度その検討会の構成員である長谷川先生より、本会より出された取りまとめの内容について薬学教育にポイントを絞った形で解説いただいた。薬学教育のカリキュラムの見直しについては、「今後の薬剤師が目指す姿」を踏まえたものとすべきであることが述べられていた。コミュニケーション能力については、臨床現場において薬学的知見に基づく指導を適切に行う上で重要であり今まで以上にしっかりと身につけられるよう充実すべきこととしてあげられていた。実務実習については、現行の改訂モデル・コアカリで参加・体験型を充実させてきているが、実習内容と質の更なる充実に努めるとともに、実務実習以外でも他職種の学部あるいは大学との連携を含め、臨床現場の実態が学習できるようなカリキュラムとすべきであることが述べられていた。最後に、配布された取りまとめの文書について、一度しっかりと目を通して頂き、今後の対応や検討が必要と考えられる事項について把握いただきたい旨が申し添えられた。

(5) 次年度以降の開催について

今後の状況を鑑みながら、共同開催をベースに会議内容について十分に吟味を図りながら対面あるいはオンラインでの開催を判断していきたい旨が説明された。

次年度開催予定：日本薬学会第 143 年会の開催様式を踏まえ決定する予定。

次年度委員長：北陸大学 石川和宏

次年度副委員長：名城大学 野田幸裕

(6) 閉会の挨拶 北陸大学 石川和宏

以上